

夢もつとひろがれ

10

発行・編集
いぶき福祉会後援会

〒502-0907
岐阜市島新町5番9号
TEL. 058-233-7445
FAX. 058-232-9140
E-mail. ibuki@alto.ocn.ne.jp
(1部100円)

長良川鵜飼

かがり火に照らされた 夜の長良川を楽しみました



招待して下さった加納ロータリーのみなさんと

もくじ

- ② 20周年記念告知・おもいもマルシェ告知
- ③ 長良川鵜飼
- ④ いぶきと息子と
- ⑤ 生協なつまつり報告
- ⑥ 職員の姿
- ⑦ 特別支援学校との意見交流
- ⑧ 仲間の姿
- ⑨ 招き猫マドレーヌリニューアル
- ⑩ 仲間の姿
- ⑪ 四季折々の記
- ⑬ いぶきの歴史(十二)
- ⑭ 情報掲示板
- ⑮
- ⑯

秋の訪れを感じるようになりました。各地でにぎやかに秋まつりが開催され、稲穂が金色に輝いています。いぶきの仲間たちも秋の風を感じながら、日々仕事に取り組んでいます。今号は鵜飼観覧や招き猫マドレーヌリニューアルなど盛りだくさんの内容でお届けします。



法人設立20周年 記念式典・懇親会についてのお知らせ

いぶき福祉会は1994年7月に岐阜市で初めての障害者福祉分野での社会福祉法人として認可されました。そしてその翌年1995年4月に岐阜市島新町に「いぶき」が開所しました。

法人設立から20年目を迎えるひとつの節目を迎えるにあたり、これまでいただいた数々のご支援に感謝し、これまでのいぶき福祉会の歩みとこれからのいぶきについてご報告する機会をいただければと思っております。また、いぶきが大切にしてきたこと、これからも大切にしたいこと、これから創り拓いていく道について、それぞれの思いを共有し、今一度ともに

集い、語る機会にしていきたいと思っております。

記念式典

■日時

12月16日(水)

10時～12時

■会場

ぎふメディアアコスモス

みんなのホール

岐阜市司町40番地5

記念懇親会

■日時

12月19日(土)

11時～13時

■会場

岐阜グランドホテル

岐阜市長良648

・利用者、保護者も一堂に集めたいと思えます。

おいもマルシェ

いぶき福祉会後援会

主催で今年はじめの楽しい「おいもマルシェ」を開催します。さつまいもだけでなく、採れたての新鮮野菜やおいしいお菓子が勢ぞろい！ほかにさまざまな企画をご用意してお待ちしております。ご家族そろってハロウィンの一日を楽しみましょう。

■日時

10月31日(土)

13時～17時

■場所

八幡神社(岐阜市八幡町)

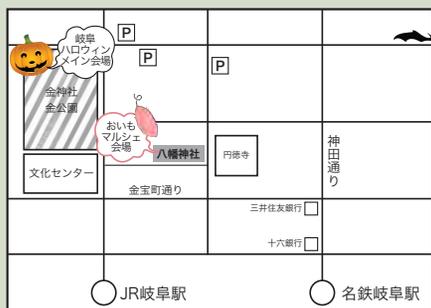
下記の地図をご覧ください

■出展団体

いぶき(お菓子、野菜、お茶)・チュラサンガ(野菜)・カエル農園(野菜)・

一期一会農園(野菜)・傳六茶園(お茶)・まあふみふみ(お菓子)・ひかちゃん整体 L A L U M I E R E(整体)

当日は岐阜ハロウィン2015が開催されており、金公園をメイン会場に、玉宮かいわい、岐阜駅から柳ヶ瀬、美殿町など街中がハロウィン一色に染まります！いぶきのおいもマルシェも岐阜ハロウィン企画のスタンプラリーやお菓子のプレゼントをします。(小学生までのお子様) また、先着200名様に「しし肉入りいも汁」プレゼントします。



お問い合わせ先
いぶき福祉会後援会事務局(いぶき内)
058-233-7445
担当原・加藤
フェイスブックページ
もご覧ください！

いぶきおいもマルシェ

検索



ぎふ長良川鵜飼



9月29日、岐阜加納ロータリークラブ様のご招待で、第二いぶきの仲間と職員で長良川鵜飼へ行ってきました。



仲間たちは、何週間も前から鵜飼を心待ちにしている、期待に胸を膨らませていました。船に乗ることが初めての仲間が多かったのですが、段差なく船に乗り込むことができるバリアフリー船を用意していただけたら、乗降を

ご協力していただけたりと、車椅子の仲間たちも安心して乗船することができました。緊張していた仲間も、船の上での心地よい風や船のゆれにリラックスしている様子でした。



また、家に帰って家族に見せたいと写真を撮ったり、第二いぶきの船が隣に並ぶと嬉しそうに手を振り合ったり、屋形船の提灯を見つめて手を伸ばしたりと、思



い思いに鵜飼の時間を楽しんでいました。加納ロータリークラブの皆さまも一緒に船に乗っていただけ、少し緊張しながらも自分の仕事の話や鵜飼を楽しみにしてきた話など、交流を深めていました。

天気にも恵まれ、夜空を彩る大きな月が長良川に浮かぶ鵜飼の船と合わさって本当に幻想的でした。篝火が燃え盛る様子や鵜匠さんと鵜が一体となって漁をする様子をすぐそば

で見ることができ、仲間たちの嬉しそうにしてる表情がとても印象的でした。岐阜の伝統的な文化に触れ、普段体験できない有意義な時間を過ごすことができました。

このたびは、長良川鵜飼にご招待いただきまして、本当にありがとうございました。うございました。

第二いぶき

山田ひかる

《仲間の声》

●初めて鵜飼の船に乗れて、近くで鵜飼を見ることができてよかったです。テレビや写真で鵜飼を見たことがあったけど、思っていたよりかがり火が大きく燃えていて迫力があってすごくおもしろかった。

●鵜が魚捕まえて鵜匠

さんに引き上げられるところを見ることができました。たくさん鵜がいるのになぜどの鵜が魚を獲ったのかわかるのか不思議だった。

●かがり火も、大きな月や他の船の灯りもすごくきれいだった。鵜飼が始まる前の花火もとても近くで上がったから嬉しかった。

●普段夜に出かけたりしないのでちょっと眠かったけど、いつもできない経験ができて最高の思い出になった。



シリーズ

私と息子とつづきと

第一章(出生)

昭和51年2月、真冬の寒い日、龍平は超未熟児として生まれました。私は出張のため立ち会えず、帰つてすぐ病院に駆けつけました。特別な部屋の特等なケースの中にいる我が子を、ガラス越しにじっと見つめる妻の姿がありました。思わず涙があふれてきました。

あれから39年あまり、一度も忘れることはできません。

第二章(いぶき)

知的及び身体的障害が明らかになったその日から、事の重大さを認識

し真摯に対処していくことを決意しました。一方で、不自由な体が治るのでは？話せるようになるのでは？といったありえない奇跡を信じていました。かなわぬこと知りつつも……。

養護学校を卒業する日が近づくにつれ、今後どうしたらいいのか真剣に悩みました。しかし幸いにもいぶきにお世話になることができ、龍平も私も妻もしばらく忘れていた笑顔を取り戻すことができました。

施設の実体を見聞きするにつれ、ここには開放的コミュニケーションがあり、充実した社会生活を送

ることができると確信しました。いぶきと出会えたことに心から感謝しています。



第三章(第二いぶき)

平成18年の真冬、私は多臓器不全のため、突然大学病院の高次救命センターに入院することになりました。なんとか生還して一ヶ月後には一般病棟に移ることができました。

面会がオーケーとなったため、さっそく龍平がやってきました。久しぶりの対面で手をた

いてはしゃいでいましたが、当然何を話すわけでもなく握手して小躍りしながら帰っていききました。出ていく後ろ姿をベッドで見ている目頭が熱くなり、心の中で「ありがとう、ちゃんといぶきへ行きよ」とつぶやきました。

平成23年からパストラルいぶきで共同生活を始め、土曜の朝から月曜の朝までの丸二日間は家で生活しています。親の負担が軽減されたこと、支援スタッフの方々のご苦勞に感謝しつつも、一抹の寂しさを感じるときがあります。

龍平が帰ってくる土曜日の朝は玄関前で待ち構えています。「お帰り」を言うために。

最終章(独り言)

龍平！お父さんは一度でいいからおまえとキャッチボールをやりたかった。それはかなわぬ夢としても、ひとつだけできることがある。それは『心のキャッチボール』、いつまでも元気で！

龍平の父

野々村文雄



生協なつまつり報告

今回の生協なつまつりでは、かき氷を主体にいぶきのお茶とねこ玉も並べて販売しました。前日から大雨が降っており、当日も雨が降ったりやんだりのどんよりとした天気でした。湿度があり、むしむしとした暑さもありました。そんな天気の中、生協西支所に着くともうバザーは始まっているのか、たくさんのお客さんがおり、朝早くから活気づいていました。すぐに準備すると、すぐにお客さんが来られ、すぐに長蛇の列という盛況ぶり！14時頃になるまでほぼ列は途切れませんでした。途中何度かハプニングもありましたが、初めに予想し



た200食を大きく上回り335食を売り上げました。

かき氷ですが、生協さんから買ったシロップを使用しました。味はいちご・オレンジ・白桃の三種類で特に白桃が大人気で、途中でオレンジも白桃もシロップがなくなるほどでした。お客さんに、シロップはどこで買ったのかというのを聞かれることも多かったです。

今回のバザーは、夏休みが終わる直前の夏まつりのせいも、子どもさんや子連れのお客さんが多いようでした。定番のかき氷に珍しい味があるのが好評だったようです。

いぶき 小笠原一喜

衣料品バザー開催します

毎年恒例の衣料品バザーを開催します。今年で11回目を迎え、毎回朝早くからたくさんの人でにぎわうイベントになりました。

この衣料品バザーでは、有名メーカー新品の衣料品だけでなく、いぶきのおいしいお菓子の販売も行います。みな

さまお誘い合わせのうえ、ぜひお越しください。このバザーの売り上げは、障がいのある仲間への活動の援助に使わせていただきます。

■日時

12月5日(土)

10時～15時

■会場

生協「虹の家」

岐阜市芥見南山

3・1・1

■お問い合わせ先

第二いぶき

058-229-6464

担当森・和田



スカート 500円～
パンツ 500円～
ジャケット 1,000円～
コート 1,500円～

おいしい
お菓子も
同時販売!



今年度より第二いぶきの施設長という役職を拝命し、日々その責任の重たさを感じています。

いぶきの実践現場ではダイナミックな日常が広がっています。それを支えているのは職員集団です。職員は仲間の激しいパニックを抱きしめるように受け止め、その後何かが仲間をそうさせたのか、その思いはどうだったのだろうかと振り返り、調子が悪い中でもどうし



たら楽しく参加できるかを真剣に考えています。日々の変化の中で仲間の気持ちを大切にしながらも生活に歩んでいくことが、とても大切だと改めて感じています。もちろん、すべての場面で仲間に寄り添ってはいません。し

職員のすがた

はじまり、訴え続けた設立運動の気持ちはまだ施設に残っているからだと思っています。これはいぶきの中ではあたりまえなので新たな職員・仲間も伝えなくても、いぶきに慣れるにしたがってすぐにあたりまえのことになってい

なんとなく自分が全体につながっている感じがしていました。しかし集団が大きくなると、その点が難しくなってきました。支援や働き方に関する仕事を職員同士が共感しながら、それぞれが日々の仕事にあたっていくことは

かし、その大切さに気づき、頑張ろうとしている職員集団があるということは大切なことだと思っています。いぶきには仲間を中心に据えて考えるという風土があると思います。私は「この子のため施設を作りたい」と

ます。一方で、いぶきの職員集団が大きくなつてくる過程で上記のようなあたりまえに伝わることもが伝わりにくくなっているのではないかと感じています。集団が小さいときは見回せば誰でも全体が把握でき

非常に重要です。以前は意思決定を誰かがすれば、全体で共感でき、なんとなく乗り越えていきました。しかし、集団が多くなつていく中で、共感だけで大切なことを伝えていくのは限界があり、体制・業務などのシステムの

中に組み込んでいくことが必要になってきていると感じています。

そのうえで今年度、私は短期的に2つ目標を持っています。

① パストラルを安定的に運営する道すじをつけること

② 日中の生活を充実させること。当面しごと会計(授産)の黒字化を図ること

日々の仲間の生活を大切にしながら、以上のことを多くの方々のご協力をいただきながら形にしていきたいと思っています。皆様のご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

第二いぶき 森洋三

特別支援5校との 意見交流会



去る8月19日、いぶき福祉会と関わりの深い特別支援学校で進路指導に携わって見える先生方をお招きし、意見交換会を行いました。岐阜特別支援学校からは高等部教頭の阪之下先生、岐阜本巣特別支援学校からは中学部主事の前田先生、関特別支援学校からは進路指導主事の寺澤先生、中濃特別支援学校からは進路支援部の古川先生、長良特別支援学校からはキャリア支援部の山田先生にご出席していただきました。

法人内で進められているビジョンの内容と共に、今後のいぶき福祉会の新規利用や事前実習の進め方について説明させていただきました。学校側からも後の対応等について率直なご意見をいただき、非常に密度の濃い意見交換会となりました。市内でも急速に増えつつある放課後等デイサービスの問題点なども話題となるなど、1時間半を予定した会は2時間半にも及びました。

今後各特別支援学校とのこういった連携は続けて取り組んでいこうと思います。

いぶき 池田光巳

りすのほっぺ 秋のディナーショー

去る9月16日、『りすのほっぺ with 粥川なつ紀ディナーショー』

ジャムとジャズで感じる秋の訪れ』を岐阜市にある和食料理のお店「楮はなれ(こうぞはなれ)」で開催しました。

この会では、りすのほっぺジャムを使ってシェフが創作料理を作って下さり、その料理を味わったあとはりすのほっぺアンバサダーでもあるジャズサクセス奏者の「粥川なつ紀」さんの演奏を約30名のお客様に楽しんでいただきました。



お料理が始まる前に、りすのほっぺ製造担当者から仲間と一緒に丁寧作り上げるジャムのこだわりを紹介しました。

コース料理は前菜からデザートまで5品ですべてのお料理にジャムが使用されており、りすのほっぺジャムのおいしさをさらに引き立たせてくれるものばかりでした。

また、会に参加されたお客さまからは、ジャム製造や材料へのこだわり、丁寧に作られているようにとても感動され、たくさんのお褒めの言葉をいただきました。今年の3月に続き、二度目のジャムパーティーでしたが、たくさんの方にりすのほっぺジャムを知っていただくことができました。今回はさらに私たちスタッフもジャムの新しい味わい方を知ることができ、貴重で贅沢な秋のひとつとなりました。



第二いぶき

初瀬尾久美子

第二いぶき 仲間のすがた

達也さんとのあれこれ

私が第二いぶきに来て2度目の夏を迎えました。この文章には達也さんとの出会い、散歩のこと、達也さんの感情表現、外出の思い出、これからといった事柄について記していきたいと思います。

廣瀬達也さんは揖斐に住んでいる30歳の男性です。てんかんの発作があり発作が大きいと活動レベルに大きな影響が出ます。甘い物が好きで教育番組の「にっこごふん」のテーマやみんなのうた「ちよんまげマーチ」が好きです。好きなものに触れると笑顔を見せてくれるときもありません。後にも書きますが人との関わりが

好きで快・不快を上手に表現でき、相手を見てコミュニケーションの仕方を変える器用さもあります。



■ 達也さんとの出会い
私が達也さんと初めて出会ったのは昨年の4月でした。しんどそうな顔をしてマット上で横になって過ごしている姿が印象的でした。この頃は体調

がすぐれない日が多く、出勤できても体に力が入らず自分で座位を保持しているのが難しいのでマットで横になつていような状態でした。トイレや食事などで移動する際は歩行介助を行うのですが、本人の体に力が入りにくく一緒に歩くのが大変でした。そんな達也さんの体調が戻ってきたのは6月頃でした。少しずつ元気になつて一緒に散歩に行ける日もだいぶ増えました。

■ 散歩のこと
月曜日から水曜日まで午前中に散歩にでかけています。体調が良ければ施設から「らぼ農園」までを往復する1000mほどの距離を一緒に歩いていきます。歩行の介助は過介助にならないように気をつけています。具

体的にはあまり体を支えすぎないように腰だけを支えるようにするといったことです。また足の運びも出来るだけ自分から足が出るのを待つように意識しています。一緒に歩いていて「かくつ」と膝から崩れたときにさつ！と支えなければいけないので緊張しますが「自分で歩いている。」ということを意識して欲しいので注意しながら実践しています。体調の良い日はすごい速さで歩ける日があります。一緒に散歩して他の仲間たちをこぼろ抜きです。あまりに颯爽と歩くので周囲が心配するほどですが介助している私は本人のペースに合わせているだけといった感じですが。そんなときはよく笑顔が出ているようです。私は背後から歩行

介助しているため表情が見えにくいのですが、散歩中に出会った他の職員に「達也さん笑っているよ。」と教えられることがあります。行きが良くても帰り道になると途端に頭が下がり足取りも重くなります。ついにはその場に座りこもうとしてしまふこともあります。そういうこともあり、歩いて散歩に行けるかどうかの見極めはかなり難しいものです。体調が良ければと書きましたが実際のところ今日は大丈夫かな？と思う日もあり、そういうときは本人の様子を見て難しそうなら無理せず途中で引き返すこともあります。今日はちよんと体に力が入らないなというときは車イスで行きます。仲間にとって外に出る貴重な機会なの

で、できれば車イスを使つても行きたいのです。歩くことで体力を維持するということは散歩の目的のひとつではありませんがそれが全てではないと感じています。外に出て外界の刺激を五感で感じることも、移りゆく四季を感じることも大切な目的だと考えています。幸運なことに施設の周りは豊かな自然に囲まれており、わずか数メートルの散歩の中で多くの自然を感じることができます。正直に言えば車イスで散歩にいつてもずつと頭を下げ目を閉じている日もあります。それでも日差しや空気の温度、におい、音などから移りゆく季節を感じてくれていると、今日という日を感じてくれていると思つて一緒に散歩しています。実際に車イ

帰り道になつてようやく笑顔が出て顔が上がつてくるといったこともありました。普段私と一緒に歩くことが多いので出来れば色々な人と一緒に散歩に行けるといいなあと考えています。達也さんは体が大きいので歩行介助となるとついつい「男性の自分が」と動いてしまうのですが、達也さんが他の職員と一緒に歩く機会を奪わないように気を付けなければということが私の反省です。

■ 達也さんの感情表現

言葉は発しない達也さんですが感情表現は豊かです。表情で気持ちを読み取れます。うれしい時は笑顔を見せてくれます。怒った時はむくれれます。手もよく動きます。欲しいものは左手を自分で使つて取ろうとすることも

ありますし、いらぬものはしつかり目で見て左手で「いらぬいっ」と押し返してくることもあります。

達也さんは人と関わるのが好きです。声をかけてもらえると恥ずかしそうに少し俯いたり、顔を背けたりしますが表情は笑顔です。仕事のときに応援してもらえるといつも以上に頑張れたりもします。1対1のコミュニケーションも好きで水分補給をするときにお茶をすすめるとわざとお茶の入ったコップを手で押したり、体を仰け反つたりして二通り職員を困らせてから普通に飲むというように職員とのやり取りを楽しんだりします。声かけを丁寧に行うこと、本人の表出をじっくり待つことを大切にす



ることもつと自己主張が出てくることを期待しています。

■ 外出の思い出

以上が達也さんの普段の様子ですが外出したりするといつとも違う様子を見ることが出来ます。去年の夏のボーナス外出で買ってきたシュークリームを施設に戻つて食べようとした時でした。机の上のシュークリームへ不意に手を伸ばし、自分で持つて、大きな口を開けて、モグモグと自分で食べ

ました。普段食事は介助で食べている達也さんが自分で食べ物に手を伸ばし、大きな口を開けて食べる。達也さんはシュークリームが好き。その気持ちが伝わつて私もうれしくなりました。

■ 今後の課題

元気に出勤できる日が増えていく達也さんですが、夜間に大きな発作があると日中もぐったりとしてしまい、顔が下がつて体が辛そうにしています。そんな達也さんが笑顔をふいに見せてくれると私もうれしくなつてしまいます。達也さんがもっと楽しく生活できるように元気でいて欲しいので一緒に歩いて、興味の持つてくれるようなことを提供できるように支援していきたいと考えています。

第二いぶき 滝健司

ゆめひろ

はじまりとおわりと 新たなはじまり

リニューアル!
さらにおいしく
なりました



『バター不足 海外から〇〇ト緊急輸入』『おひとり様〇個まで』そんなニュースや、スーパーでの貼り紙を、みなさんも最近よく目にされるのではないのでしょうか。今、日本全国でバターの入手が困難になっています。このバター不足は、酪農業界などで様々な原因があるようですが、ゆめひろで製造している招き猫マドレーヌもこの問題に直面してしまいました。もともと招き猫マドレーヌは岐阜県の飛騨で製造されている飛騨バターを贅沢に使うことで、コクのある

芳醇な味わいを出していました。これは試作段階で様々なバターを試しましたが、飛騨バターにしか出せないものでした。そんな飛騨バターが「2015年3月末日でもって製造中止になる」という連絡が飛び込んできたのです。

飛騨バターが手に入らないとなった時に選択肢はいくつかありました。①招き猫マドレーヌの製造を中止する、②代わりになるバターを探す、③バターの代わりになるものを探すの3つです。①はいぶきの看板商品のひとつになってきてい

るマドレーヌを簡単にやめてしまうことはできないということでも早々に選択肢から外しました。②と③については同時に探していきました。しかし、前述のようににそもそもバターの不足も重なり、十分な量のバターを確保することそのものが難しく、さらに私たちが求める条件を満たすものとなればなおのこと困難でした。また、バターの代替品としてすぐにイメージできるマーガリンやショートニングでは商品イメージに合わないうえに、肝心の味が保てないということも、代替品探しも思うようには進みませんでした。「もう自分たちでバターをつくってしまおうか……」そんな意見も出される

ほどでした。その一方で、バターの入荷がストップし、3月末までに確保しておいたバターを少しずつ使用して製造している間は、大量注文を受けることができずにいました。これまでどおり、「結婚式でつかいたい」「ねこが好きで友人への贈り物にしたい」などご注文をいただいても、「バター不足で……」「確実にお渡しできないというお約束ができないので……」とお断りすることがほとんどでした。中には「ずっと待っている。いつまでも待てばいいのかわからないのか。いつまでもできないのはおかしくないか?」とお叱りの電話をいただくこともありました。そうした内容は、私たちへの期待の大きさの表れであっ

たと思います。そうしたことをうけ、新マドレーヌ開発への焦りは募る一方でした。

新マドレーヌ開発には専門家の方にもご協力をいただきました。何度も製造現場にも来ていただき、仲間たちとともにいろんなマドレーヌを試しました。バター以外の材料も改めて見直して調整していきました。仲間たちも試作を「新しいマドレーヌを完成させるための研究」と捉え、なかなか安定しない日々の活動に根気よく取り組みました。そうした中で少しずつ「バターに頼らないマドレーヌ作り」に方向性が固まっていきました。バターが入らないことでの作りづらさや、新しい作業工程の導入などまだま

だ課題は残っています。しかし、小麦粉や卵、はちみつなどマドレーヌのベースとなる部分に岐阜県産の素材を使用し、そこに太白ごま油とココナツオイルという新しい素材を加え、さらに、京都産の抹茶、北海道産のかぼちゃやパンプキンシード、小豆などで味付けをした新しいマドレーヌは、これまでマドレーヌを支えてきてくれたお客様たちにも必ず受け入れてもらえるものと確信しています。このマドレーヌは、9月中旬よりまずはプレーン、チョコレート、抹茶、マロン、かぼちゃ、大納言小豆の6種類から、ねこの約束岐阜駅店で販売がスタートしています。

の仲間たちとゆめひろの仲間たちで交流会をもちました。参加したのは、はじめて第二いぶきで招き猫マドレーヌを作った仲間たちと、今ゆめひろで招き猫マドレーヌを作っている仲間たちです。同じ招き猫マドレーヌに携わった仲間たちですが、こうした形で顔を合わせるのは初めてでした。



マドレーヌが第二いぶきからゆめひろへとしっかり受け継がれていたことを確認しました。そして、飛騨バターを使用した最後のマドレーヌをひとつずつ食べ、自分たちがこだわって作り上げた味を確かめました。



新しいマドレーヌに確かな手ごたえを感じているようでした。本来であれば最後のマドレーヌは一つでも多くお客様の手が届けるべきかとも思いました。しかし、はじめた人たちとそれをおわらせた人たちが自分たちの思いを確認しあうことで、自分たちの商品にきちんと幕を引き、そして新たなスタートをしっかりと切ることでできたのだと思います。



2015年9月8日17時10分、ねこの約束で飛騨バターを使用した最後のマドレーヌが売れました。こうして2006年に愛知県常滑の商工会議所と共同しながら第二いぶきで始まった招き猫マドレーヌの物語は、この日ゆめひろで終わりました。しかし、新しいマドレーヌはその内容や姿を変えながらも、「招き猫マドレーヌ」の名前は引き継いでいきます。これからゆめひろの仲間たちが語る新しい招き猫マドレーヌの物語をこれまで以上に多くの人に届けていけるようにしていきたいと思えます。

いぶきゆめひろ共同作業所
永田和樹

いぶきの仲間 かりんとう工房

かりんとう作りを通して



大地のかりんとうが
始まって今年で4年目
に突入しました。

私が、この部屋を受
け継いだのは2年半前
になります。毎日暑い
中での作業は大変です
が、仲間たちも日々前
向きに仕事に取り組ん
でいます。



そんな中、販売者の山
本佐太郎商店さんがテ

レビの取材を受けるこ
とになりました。そして、
製造現場であるいぶき
にも取材の依頼がきま
りました。テレビの取材がく
るといふ事を仲間に伝
えると、「取材ってすごい
ね」「有名になったんや
ね」と驚きながらも嬉し
そうな様子がみられま
した。

後日、作業後に放送さ
れた番組をみんなで見
ました。番組の中では、
みんなの作業風景の他
にいつもお店に足を運ん
でかりんとうを買いに
きてくれている、さまざ
まな年齢のお客さんが
コメントをしている場面
が映りました。「衝撃的

でした!」「どれだけ食
べてもあきない」「かり
んとうといえばコレ」と
いう声を、実際に食べて
いる人の口から聞くこ
とができました。大地の
かりんとうは、作り終え
たあと販売者に納品す
るため、自分たちで販
売するという機会は全
くありません。製造者
にとって作ったものがど
んな場所で売られ、どん
なに食べられているのか
ということを知ること
ができる、仕事を続け
ていくことへのやる気
もつなげていくと思
います。

私自身もなかなか普
段は聞くことのできな
い声にとても感動して
いました。横を見ると、
一緒にみていた仲間た
ちは、最初は自分たちの
作業している様子がテ

レビに流れるのを見て、
「私が映ってる」とはじ
めは、みんなで盛り上が
っていました。しかし、お
客さんのコメントの部
分が始まると、それま
での反応とは違い、みん
な真剣な表情で食い入
るように見ていました。
「おいしいって言うてく
れとるなあ」と、お客さ
んの言葉に嬉しそうな
反応をみせている仲間
もいました。放送が終わ
つてからも「大好きって
言くれとるなあ」と、お
客さんの言葉に嬉しそ
うな反応をみせている
仲間もいました。放送が
終わってからも「大好き
って言うてた」「小さい子
もいた」と、みんなの声
がとぎれませんでした。
今回は、自分たちが
作っているかりんとうが
いろんな人に「おいし

い!」と喜んで食べても
らえているという実感
に繋がりました。只々
たくさんのかりんとう
を作ることは、ただの作
業になつてしまします。
しかし、多くの人たち
に喜んでもらうために、
おいしいものが食べら
れる幸福を感じてもら
うために、自分たちは
かりんとうを作ってい
るといふ意識をもつこ
とが、できればそれは
仕事を通しての生活の
豊かさに繋がっていく
のだと思います。
2年半前は、1日最
大15kgでしたが、今
では1日に最大30kg
まで作る日もあります。
これからも、より多く
の人たちに幸福を届け
たいと思います。

いぶき 加藤千尋

連載 四季折々の記



『伝説の国語教師』

橋本武

神戸にある灘中学校がまだ進学校でないころ、赴任した国語教師が風変わりな授業を行った。いまや灘校の伝説にもなっている橋本武先生である。

中勘助(なかかんすけ)が書いた自伝的小説「銀の匙(さじ)」の、薄い文庫本一冊を中学3年間かけて読むという授業である。この授業を受けた最初の学年が15人の東大合格者を出し、その後灘校は全国一の進学校となり、多くの優秀な人材を輩出することになった。

この授業は、文章を徹底的にゆっくり読解し、横道に逸れることをい

とわず、一字一句の意味

を徹底的に自分で調べ考えていくという、一カ月に数ページの「遅読」の授業であった。あるとき、不安に思った生徒が「このペースでは3年間で200ページが終わらないんじゃないですか」と質問した。

■すぐ役立つことは、すぐに役立つたなくなる

その問いに対して橋本先生が言った名言がある『スピードが大事なんかじゃない。「すぐ役立つ」ことは、すぐに役立つたなくなります。何でもいから少しでも興味をもったことは、自分から掘り下げほしい。そうやって自分で見つけたことは君たちの一生の財産になります。そのこと

はいつか分かりますから。」

現在はインターネットによつて、たいいていの事柄は検索することによつて、簡単に調べられる時代になつてきている。「知識」が断片的に多くあることに価値がおかれ、点である「知識」が織物のように「線」となり「面」となることによつて「彫琢(ちようたく)」され、他の事項にも応用できるような「知恵」に至つていないことが見受けられる。

さらに橋本先生は国語の勉強に対して「国語は学ぶ力の背骨です。国語力のあるなしで、他の教科の理解度も違う。数学でも物理でも、深く踏み込んで、テーマの真髓に近づいていこうとする力こそが国語力で

す。それは生きる力と置き換えてもいい。」とま

■安保関連法案審議に思う

この通信が発行される頃、安保関連法案の帰着はどうなっているのだろうと思う。審議過程の答弁を聞くと、明らかに国語的な不整合が散見される。

立憲主義の優位を説きながら、それをないがしろにした国益を優先する発言。質問に対する答えになつていない曖昧模様の答弁。自衛隊は軍隊ではないとの前提にたつての「旧日本軍」などの不整合な発言など枚挙にいとまがない。もしこの「安保関連法案」がこのまま成立すれば、自衛隊の職務内容が従来と大きく異なるため、

現職の自衛隊員全員に雇用契約の再契約を行

う必要があるはずである。自衛隊員の現職のなかには再契約を結ばず除隊する者もいるだろう。そのため自衛隊員には、特別の優遇税制や現物支給を含めた金銭的インセンティブが与えられるという話も聞く。貧困問題・失業問題の緩和に利用されるとなれば、論外である。

「立ち止まらなければ、

行けない場所がある」という警句がある。我が国の針路を左右するこの時期、「すぐ役立つこと」にこだわらず、今一度立ち止まり、「法案」の一字一句について丁寧な議論を積み重ねていくときなのではないかと思う。

文責

いぶき はやしもりお

小規模授産施設「いぶき」第二「いぶき」は多くの困難を克服し、20年前に法人施設に生まれ変わりました。私たちは30年前に養護学校（現・特別支援学校）を卒業しても在宅生活しかなかった比較的障害の重い人たちに働ける場所を保障しようと、岐阜市が行っていた10人程度規模の委託事業である小規模授産所を開所し、それなりに頑張つて活動してきました。しかし小規模作業所を続けているうちに国の認める法人施設との格差を知るにいたり、また同じような障害を持つ人なのにその処遇に大きな差別があることに気づき、何とかする必要を感じるようになったことから法人化

運動を広げていったのでした。その経緯はこれまでの連載で書いてきた通りなのですが、そこから漏れていた少し具体的なことを記しますと・・・。

30年前、私たちが利用していた施設は、岐阜市の支所統合によって利用されていなかっ

法人施設になつて思うこと

た島支所跡地のプレハブを作業ができるように改装しただけのものでしたから、とても狭く食事の場所も作業場も同じ場所でした。ただ炊事筋場はありましたので、そこでお茶を沸かしたり、お味噌汁を自分たちで仲間も一緒に作っていました。

トイレは汲み取り式の男女兼用ひとつで不便なものでした。事務室はなく（もちろん事務員はいません）事務事は仲間が帰ってから私たち自身でやるしかありませんでした。いつも仲間が作業しているときは一緒に作業をしていました。昼食は給

食弁当を業者の方に持つてきてもらい、作業台の上の物を片付けて食べていました。こうした小規模授産施設には当然のことながら、本物の福祉には必要な専門職など配置されませんでしたから、当時の私は、施設長、兼指導員、兼事務員、兼運転手といっ

た何でも屋でした。しかしそれは当時の小規模作業所の象徴的な姿ではなかったかと思っています。

法人施設になつて、仲間の活動環境は大きく改善されました。30名利用者の施設でしたから、10名ごとの3部屋に作業室を設置しまし

た。当面の間はそれまでやってきた袋の加工作業を全員でやりましたが、仲間の中には袋加工に向かない仲間も当然います。そこで30人の仲間全員の作業を保障するために、障害の軽重を考えながらいろいろな作業を用意する上での苦労もあ

りました。それでも、30人の利用者が職員と一緒に食事ができる食堂、それに伴う厨房、事務室、更衣室、車椅子の仲間にも対応できる大きめで綺麗なトイレなどなど、充実した施設での生活や作業は大きな楽しみをもたらしてくれました。敷地面積の都合で3階建ての施設にしなければならなかったのですが、車椅子利用の仲間が3階まで自由に行けるようにエレベーターのある近代的な法人施設に生まれ変わったことには、誇らしさすら感じました。小規模作業所のとくと比べれば天と地の違いでした。

（次号へ続く）

いぶき 横幕 嘉行



後援会員への新規加入・更新をよろしくお願ひ致します

〔振込先〕

郵便振替 00840=3=91146
加入者名 いぶき福祉会後援会

〔年会費〕 一般会員 一口 2,000円
団体会員 一口 10,000円

〔お問合わせ〕 いぶき福祉会後援会事務局

TEL 058-233-7445

FAX 058-232-9140

E-Mail ibuki@alto.ocn.ne.jp

(タイトルに後援会員と入れて下さい)



今月からオンラインでの入金もできるようになりました。

下記のアドレスからご利用いただけます。

いぶき福祉会canpan決済

<http://kessai.canpan.info/org/ibuki/>

後援会への入会はJR岐阜駅の

「ねこの約束」でも手続きしていただけます。



編集後記

いぶきでは、仲間が生き生きと楽しく生活・仕事を
する中で、たくさんの商品
を作り出しています。今号
で紹介しているかりんとう
やマドレーヌはその代表作
ですが、そうした商品作り
の工夫と素晴らしさの一端
をお知らせできたのではな
いかと思います。が同時に、
そうした仲間の生活・仕事
を日々支える職員集団によ
る、いぶきの熱心な運営に
も注目して頂きたいと思っ
ております。共同作業所の
時代の十人程度の小集団か
ら現在の百名にも及ぶ大き
な職員集団に成長する中で
は様々な苦勞もありました
し、所長やリーダー等々の
役を担う各職員には日々、
組織管理等々で大きな責
任が伴ってきます。こうした
職員集団を一番の根底から
支えて下さっているのも、
『夢よもつとひろがれ』を読
んで頂いている後援会員の
皆々様でございます。お読
みになった感想・批判をお
寄せ頂くことも含めて、今
後ともいぶき福祉会をどう
か宜しくお願ひいたします。
編集委員長 竹内章郎